

## 急性膵炎を合併した膵内分泌癌の1例

なが み はる ひこ<sup>1)</sup> た なか つね お<sup>2)</sup> お だ てい じ<sup>3)</sup>  
 長 見 晴 彦<sup>1)</sup> 田 中 恒 夫<sup>2)</sup> 織 田 禎 二<sup>3)</sup>  
 まる やま り る け や の せい じ<sup>2)</sup> の さか せい し<sup>1)</sup>  
 丸 山 理 瑠 敬<sup>4)</sup> 矢 野 誠 司<sup>2)</sup> 野 坂 誠 士<sup>1)</sup>  
 きの した よし かず<sup>5)</sup>  
 木 下 芳 一<sup>5)</sup>

キーワード：膵内分泌癌，急性膵炎，主膵管閉塞

### 要 旨

症例は67歳，男性，急性腹症にて来院した。精査にて，血中アミラーゼが高値を示し，上腹部 CT 像では膵尾部に 20 mm×30 mm 大の腫瘍を認め，膵腫瘍に併発した急性膵炎と診断し選択的経動脈的膵酵素阻害剤を投与し病状は治癒した。ERCP 像では主膵管は膵尾部で狭窄していた。以上より本腫瘍は浸潤型膵管癌，膵内分泌腫瘍，ムチン産生腫瘍などを考えたが鑑別が難しく外来で経過観察した。しかし急性膵炎発症後約 9 ヶ月後の ERCP 像にて主膵管の完全閉塞，血管造影にて同部に淡い腫瘍濃染像。上腹部エコーにて腫瘍径の増大を認めたため膵悪性疾患を考え膵体尾部切除術を施行した。切除標本の病理学的検索では膵内分泌癌であった。本腫瘍の腫瘍細胞核内の Ag-NORs 数は4.89と高値で患者は術後 5 ヶ月目に肝転移にて死亡した。以上より急性膵炎の原疾患として膵内分泌癌も念頭に置く必要があると考えられた。

### はじめに

膵内分泌腫瘍は insulinoma や gastrinoma などの機能性腫瘍と各種ホルモンを分泌しない非機能性腫瘍に大別され，非機能性腫瘍は膵内分泌腫瘍の30~40%を占める。一般に膵内分泌腫瘍の根

治療法は外科的切除であるため本疾患の検出と質的診断は重要である<sup>1)</sup>。浸潤型膵管癌では内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (endoscopic retrograde cholangiopancreatography: ERCP) 検査で主膵管の閉塞や狭窄などの特徴的な膵管像が得られ膵疾患の診断的価値が高い<sup>2)</sup>。一方膵内分泌腫瘍は腫瘍径が小さいうちは主膵管の変化は少なく，その発見が遅れる事も少なくない。今回，私たちは急性膵炎を併発した膵内分泌癌の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

Haruhiko NAGAMI et al.

- 1) 長見クリニック 2) 島根大学医学部消化器総合外科  
 3) 島根大学医学部循環器呼吸器外科  
 4) 島根大学附属病院病理部  
 5) 島根大学医学部内科学第二講座  
 連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1